

株主の皆様へ



森下仁丹株式会社

第70期中間事業報告書

(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

証券コード：4524

## ごあいさつ

株主の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

このたび、代表取締役社長に就任いたしました駒村純一でございます。微力ではございますが、社業の発展に専心努力いたす所存でございますので、前社長同様のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、第70期中間期の業績につきましては、通信販売事業におけるスピードある商品展開による収益の拡大、カプセル受託事業における高付加価値製剤の拡大による収益の安定、およびロート製薬株式会社との共同販売会社「株式会社メディケアシステムズ」による国内小売店販売事業の収益増加に取り組んでまいりました。

しかしながら健康食品市場の予想以上の環境悪化と、それに伴う顧客獲得効率の悪化等により、本中間期の業績につきましては後ほどご報告いたします通り不本意な結果となりました。

下期につきましては、収益性の高い商品への注力、経費の大幅な削減かつ効果的配分により黒字の確保、ならびに経営の安定化を進めてまいりますが、通期では当初計画を売上・利益とも下回る見込であり、誠に遺憾ではあります期末配当につきましては見送らざるを得ない状況でありますこと、株主の皆様にご報告申し上げます。

ここに当社グループの第70期中間期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）の事業の概況をご報告申し上げます。よろしくご高覧賜り、今後とも一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
駒村純一

損益につきましては、上記の通り売上が大きく減少したことと、商品のリニューアル告知や拡販のための宣伝広告活動を積極的に実施したものの新規顧客獲得コストが従前を大きく上回ったことなどから、経常損失は7億8千9百万円（前年同期比3億2千6百万円減）となりました。また中間純損失につきましては8億6百万円（前年同期比4億7千6百万円減）となりました。

下期につきましては通信販売事業の戦略を大幅に見直し、着実な売上高の確保に努めるとともに期間損益の黒字転換を目指します。具体的には、

- ① 通信販売事業においては、開発・生産・販売を一元的に管理監督する企画戦略室を設置し、ビフィズス菌カプセル製剤のビフィーナなど注力商品の絞込みや複数の新商品の投入といった商品戦略を強化してまいります。
- ② 通信販売事業の宣伝広告・販売促進費を中心とした大幅な経費削減をすすめ、売上獲得コストの効率化の徹底を図ってまいります。
- ③ カプセル受託事業に関しては、収益性の高いプロバイオティクスおよび機能性カプセルに注力してまいります。
- ④ 国内小売店販売事業においては、株式会社メディケアシステムズへ供給する商品ラインナップの増強や市場戦略の再構築など収益の増加に努めてまいります。

以上の施策を実行することにより、期間損益の黒字転換を目指し、安定した収益体質への転換を図ってまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 事業の概況

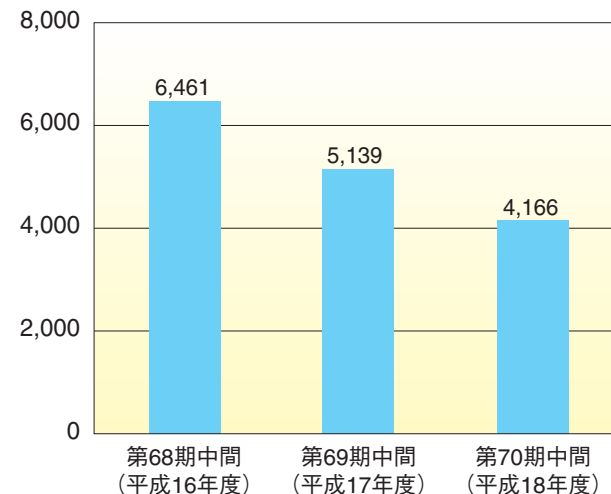
原油価格の高騰、金利上昇などの懸念材料は残るものの、企業の設備投資や個人消費は底堅く、景気は緩やかな回復基調を維持している経済環境のなか、第70期中間期の概況につきましては、極めて厳しい結果となりました。

他社不祥事に端を発する一部健康食品に対する不信感の影響と行政による薬事指導の徹底、加えて異業種大手の相次ぐ参入による競合激化など健康食品事業を取り巻く市場環境は厳しさを増しております。そのなか当社は5月に主力商品である緑茶青汁、9月にビフィーナ化粧品のリニューアルを実施いたしました。これらリニューアル品への移行の遅れに加え、アガリクスの売上落ち込みの影響もあって、通信販売事業の売上が大きく減少しました。その結果、本中間期の売上高は41億6千6百万円（前年同期比9億7千3百万円減）となりました。

分野別では、国内小売店販売事業が中心となりますオーラルケア分野およびメディカルケア分野につきましてはロート製薬株式会社との共同販売会社 株式会社メディケアシステムズが順調に稼動しており、売上高はオーラルケア分野で3億4千1百万円（前年同期比2億6千8百万円増）、メディカルケア分野で3億3千4百万円（前年同期比4千3百万円増）となりました。通信販売事業が中心となりますヘルスケア分野では主力の青汁・化粧品のリニューアル品への移行の遅れ、他社不祥事例によるアガリクスやダイエット商品の落ち込みにより、売上高は20億3千4百万円（前年同期比9億6千5百万円減）となりました。カプセル受託分野につきましてはプロバイオティクスカプセルが好調であったものの、海外のフレーバーカプセルの受託量が安定し、10億4千1百万円（前年同期比2億9千6百万円減）となりました。

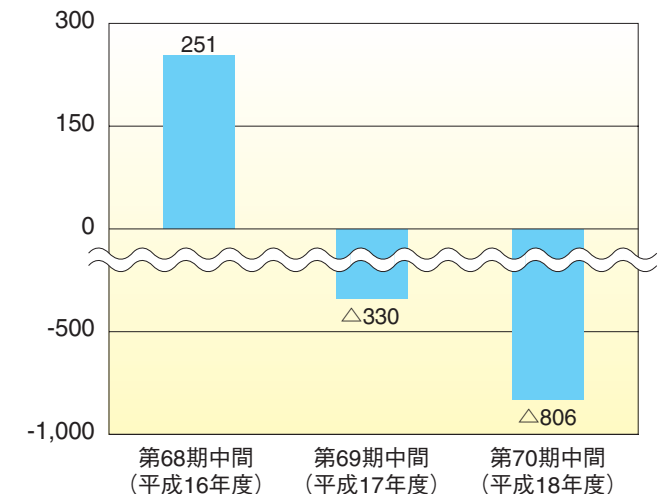
### ◆売上高（連結）

（単位：百万円）



### ◆中間純利益（連結）

（単位：百万円）



## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別 前中間連結 会計期間 (平成17年9月30日現在)	当中間連結 会計期間 (平成18年9月30日現在)	前連結 会計年度 (平成18年3月31日現在)	科目	期別 前中間連結 会計期間 (平成17年9月30日現在)	当中間連結 会計期間 (平成18年9月30日現在)	前連結 会計年度 (平成18年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>				<b>(負債の部)</b>			
I流動資産	5,775	3,775	4,768	I流動負債	5,273	3,432	3,623
現金及び預金	675	568	1,180	支払手形及び買掛金	1,678	1,210	1,269
受取手形及び売掛金	2,444	1,297	1,583	短期借入金	2,623	1,414	1,482
たな卸資産	2,501	1,738	1,868	未払法人税等	17	18	26
繰延税金資産	4	4	5	未払費用	506	569	637
未収入金	48	34	51	賞与引当金	106	86	91
その他流動資産	114	138	90	返品調整引当金	25	25	25
貸倒引当金	△ 11	△ 6	△ 10	その他流動負債	315	109	90
II固定資産	5,767	4,760	4,930	II固定負債	1,887	1,546	1,683
(1)有形固定資産	4,169	3,864	3,974	長期借入金	1,184	966	1,087
建物及び構築物	2,049	1,931	1,977	繰延税金負債	180	62	80
機械装置及び運搬具	1,123	1,000	1,086	退職給付引当金	520	516	511
土地	805	804	804	預り保証金	2	0	2
建設仮勘定	82	18	1	負債合計	7,161	4,979	5,306
その他固定資産	107	110	102	少数株主持分	—	—	—
(2)無形固定資産	111	97	104	<b>(資本の部)</b>			
電話加入権他	111	97	104	I資本金	3,537	—	3,537
(3)投資その他の資産	1,486	797	851	II資本剰余金	963	—	963
投資有価証券	1,278	608	656	III利益剰余金	△ 373	—	△ 232
長期貸付金	62	58	59	IVその他有価証券評価差額金	325	—	178
その他投資等	146	130	134	V自己株式	△ 53	—	△ 54
貸倒引当金	△ 0	△ 0	△ 0	資本合計	4,399	—	4,392
III繰延資産	17	—	—	負債、少数株主持分及び資本合計	11,560	—	9,698
新株発行費	17	—	—	<b>(純資産の部)</b>			
資産合計	11,560	8,535	9,698	I株主資本	—	3,405	—
				資本金	—	3,537	—
				資本剰余金	—	963	—
				利益剰余金	—	△ 1,039	—
				自己株式	—	△ 55	—
				II評価・換算差額等	—	150	—
				その他有価証券評価差額金	—	150	—
				III少数株主持分	—	—	—
				純資産合計	—	3,556	—
				負債・純資産合計	—	8,535	—

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別 前中間連結会計期間 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	当中間連結会計期間 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前連結会計年度 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
I売上高	5,139	4,166	9,812
II売上原価	2,511	2,303	5,106
III売上総利益	2,628	1,862	4,705
III販売費及び一般管理費	2,946	2,530	5,435
営業損失	318	667	729
IV営業外収益	24	10	31
V営業外費用	169	131	290
経常損失	463	789	988
VI特別利益	212	0	1,322
VII特別損失	75	8	506
税金等調整前中間(当期)純損失	326	796	173
法人税、住民税及び事業税	8	9	21
法人税等調整額	△ 4	0	△ 5
中間(当期)純損失	330	806	189

## 中間連結株主資本等変動計算書

当中間連結会計期間(平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				株主資本計	評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	3,537	963	△ 232	△ 54	4,214	178	178	—	4,392
中間連結会計期間中の変動額									
中間純損失			806		806				806
自己株式の取得				△ 1	△ 1				△ 1
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)						△ 27	△ 27		△ 27
中間連結会計期間中の変動額合計			△ 806	△ 1	△ 808	△ 27	△ 27		△ 835
平成18年9月30日残高	3,537	963	△ 1,039	△ 55	3,405	150	150	—	3,556

## 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別 前中間期 (平成17年9月30日現在)	期中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)	科目	期別 前中間期 (平成17年9月30日現在)	期中間期 (平成18年9月30日現在)	前期 (平成18年3月31日現在)
<b>(資産の部)</b>				<b>(負債の部)</b>			
I流動資産	5,723	3,721	4,728	I流動負債	5,239	3,399	3,573
現金及び預金	644	536	1,148	支払手形及び買掛金	1,678	1,210	1,269
受取手形及び売掛金	2,428	1,288	1,583	短期借入金	2,623	1,414	1,482
たな卸資産	2,487	1,716	1,847	未払費用	497	563	626
未収入金	60	48	69	未払法人税等	13	12	12
その他流動資産	113	137	90	賞与引当金	93	73	77
貸倒引当金	△ 10	△ 5	△ 9	返品調整引当金	25	25	25
II固定資産	5,829	4,800	4,952	その他流動負債	307	101	80
(1)有形固定資産	4,168	3,864	3,973	II固定負債	1,886	1,545	1,681
建物及び構築物	2,049	1,931	1,977	長期借入金	1,184	966	1,087
機械装置及び運搬具	1,123	1,000	1,086	繰延税金負債	180	62	80
土地	805	804	804	退職給付引当金	520	516	511
建設仮勘定	82	18	1	その他固定負債	1	0	1
その他固定資産	107	109	102	負債合計	7,125	4,945	5,255
(2)無形固定資産	111	97	104	<b>(資本の部)</b>			
(3)投資その他の資産	1,550	839	875	I資本金	3,537	—	3,537
投資有価証券	1,313	643	692	II資本剰余金	963	—	963
その他投資等	266	224	212	III利益剰余金	△ 328	—	△ 199
貸倒引当金	△ 29	△ 29	△ 29	IVその他有価証券評価差額金	325	—	178
III繰延資産	17	—	—	V自己株式	△ 53	—	△ 54
資産合計	11,571	8,522	9,681	資本合計	4,445	—	4,425
				負債・資本合計	11,571	—	9,681
				<b>(純資産の部)</b>			
				I株主資本	—	3,426	—
				資本金	—	3,537	—
				資本剰余金	—	963	—
				利益剰余金	—	△ 1,019	—
				自己株式	—	△ 55	—
				II評価・換算差額等	—	150	—
				その他有価証券評価差額金	—	150	—
				純資産合計	—	3,577	—
				負債・純資産合計	—	8,522	—

## 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別 前中間期 (平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで)	期中間期 (平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで)	前期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで)
I売上高	4,968	4,028	9,477
II売上原価	2,524	2,313	5,136
売上総利益	2,443	1,714	4,341
III販売費及び一般管理費	2,800	2,415	5,149
営業損失	356	701	808
IV営業外収益	30	23	54
V営業外費用	162	131	281
経常損失	488	809	1,035
VI特別利益	239	0	1,349
VII特別損失	74	8	506
税引前中間(当期)純損失	324	816	192
法人税、住民税及び事業税	4	3	7
中間(当期)純損失	328	819	199
中間(当期)未処理損失	328	—	199

## 中間株主資本等変動計算書

当中間期 (平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成18年3月31日残高	3,537	963	△ 199	△ 54	4,247	178	178	4,425
中間会計期間中の変動額								
中間純損失			819		819			819
自己株式の取得				△ 1	△ 1			△ 1
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額(純額)						△ 27	△ 27	△ 27
中間会計期間中の変動額合計			△ 819	△ 1	△ 821	△ 27	△ 27	△ 848
平成18年9月30日残高	3,537	963	△ 1,019	△ 55	3,426	150	150	3,577

## 《新製品のご紹介》

第70期上期の新製品は次の通りです。

### ○通信販売部門○



ラクトフェリン ¥2,940

母乳に多く含まれ、母から子へ受け継がれる大切なたんぱく質を、独自の技術で腸まで届けます。



ニュートラルボディ ¥8,400

α-リポ酸、コエンザイムQ10など人気成分をひとつに！ストレスから体を守るマルチサプリメント。



有機緑茶青汁 ¥5,040

従来の緑茶青汁から改良を加え、厳しい生産基準をクリアした商品であることを示す「有機JASマーク」を取得。



フコイダン+β-グルカン ¥10,500

長寿食の成分として知られるフコイタンを配合。中高年層の健康維持に。

青汁ゼリー ¥1,575

現代人の食生活に欠かせない食物繊維と仁丹の青汁成分もある大麦若葉をおやつ感覚で手軽に摂取できる健康ゼリー。



### \* ビフィーナススキンケアシリーズリニューアル \*

2006年9月より、独自のビフィズス菌研究により生み出された新保湿成分「ビフィズス菌多糖体」を配合した基礎化粧品「ビフィーナススキンケア」をリニューアルいたしました。従来の「ビフィズス菌発酵エキス」の「貯める保湿」と、新成分による「与える保湿」のW保湿で、美肌へと導きます。



### ○国内小売店販売部門○

#### Ravis (ラビス) シリーズ

シートに含まれる成分を寝ている間に一晩かけてゆっくりお肌の角質層の奥まで浸透させます。



目もとうるおい浸透シート ¥693

コエンザイムQ10・ビタミンA・ビタミンE配合  
5セット (10枚入り)

美白しっとり浸透シート ¥693

ビタミンC・A・E、甘草エキス、ソウハクヒエキス配合  
5セット (10枚入り)

#### ビフィーナシリーズリニューアル

当社が独自に開発したダブルプロテクトカプセルによって、胃酸に弱いビフィズス菌を腸まで届けることができる従来品に女性の美容に欠かせないビタミンC・E・β-カロテンを追加。



ビフィーナ (エース) レギュラー ¥2,520

ビフィーナ (エース) スーパー ¥3,780

※表示価格はすべて税込です。前回お届けした株主通信でラビスシリーズの価格が誤っておりました。お詫び申し上げます。

## 《「企業電話対応コンテスト」で当社コンタクトセンターが優良賞を受賞》

当社通信販売部門のコンタクトセンターが、(財)日本電話ユーザ協会主催の「第10回業種別企業電話対応コンテスト」電話対応専門部門で優良賞を受賞いたしました。このコンテストは協会の審査官が客を装い電話をかけ、その際の電話対応について複数の専門家が客観的に審査して賞を決定するものです。約480の事業所がエントリーした中で受賞対象は20事業所となっており、当社の「お客様に満足と感動を与える対応」の成果が対外的に認められたものと、受賞を光栄に感じています。今後もクオリティの向上を図り、お客様により満足と感動を与えられるコンタクトセンターを目指してまいります。



業種	賞	所属支部	企業名
商業・金融部門 診断先事業所数 74事業所	最優秀	大阪	(株)ジェシービーコミュニケーションセンター大阪プロモーションデスク
	優秀	東京	日興コーディアル証券(株)池袋ファイナンシャルサービスセンター
	優良	東京	ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)ビジョンケアカンパニーコールセンター
	優良	東京	カブドットコム証券(株)
	優良	山形	東京海上日動火災保険(株)山形損害サービス課
工業・公益部門 診断先事業所数 194事業所	最優秀	長野	(有)関谷醸造場
	優秀	宮城	(株)葉匠三全 販売管理課
	優良	東京	東京電力(株) 東京カスタマーセンター
	優良	千葉	(医)市川子どもクリニック
	優良	三重	中部電力(株)津営業所 配電建設課
サービス部門 診断先事業所数 160事業所	最優秀	滋賀	蒲生ゴルフ倶楽部
	優秀	大阪	松竹(株)チケットホン松竹(関西)
	優良	石川	佐川急便(株)能登店
	優良	大分	(株)ディック学園鹿児島校
	優良	神奈川	大原簿記専門学校横浜校 広報課
コールセンター等 電話対応専門 部門 診断先事業所数 51事業所	最優秀		該当なし
	優秀	大阪	関西電力(株)大阪南コールセンター
	優良	沖縄	(株)しまのや沖縄コールセンター
	優良	大阪	森下仁丹(株)e-ヘルスケア営業部コンタクトセンター
	優良	東京	キャノンマーケティングジャパン(株)BtoBコンタクトセンターCBM受付チーム

## 会社概要（平成18年10月23日現在）

### 役員

代表取締役社長	駒村純一
取締役名誉会長	森下美恵子
取締役相談役	相原之壽
取締役	武貞文隆
取締役	森岡茂夫
監査役(常勤)	高橋優夫
監査役	渡邊俣治
監査役	安田重次
執行役員	高田真一
執行役員	園井伸輔

(注) 1. 中間期末日以降の取締役の異動

平成18年10月23日付で代表取締役社長相原之壽が取締役相談役に、代表取締役専務駒村純一が代表取締役社長に就任いたしました。

2. 監査役のうち渡邊俣治、安田重次の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

### 商号

森下仁丹株式会社  
MORISHITA JINTAN CO., LTD.

### 資本金

35億3,740万円

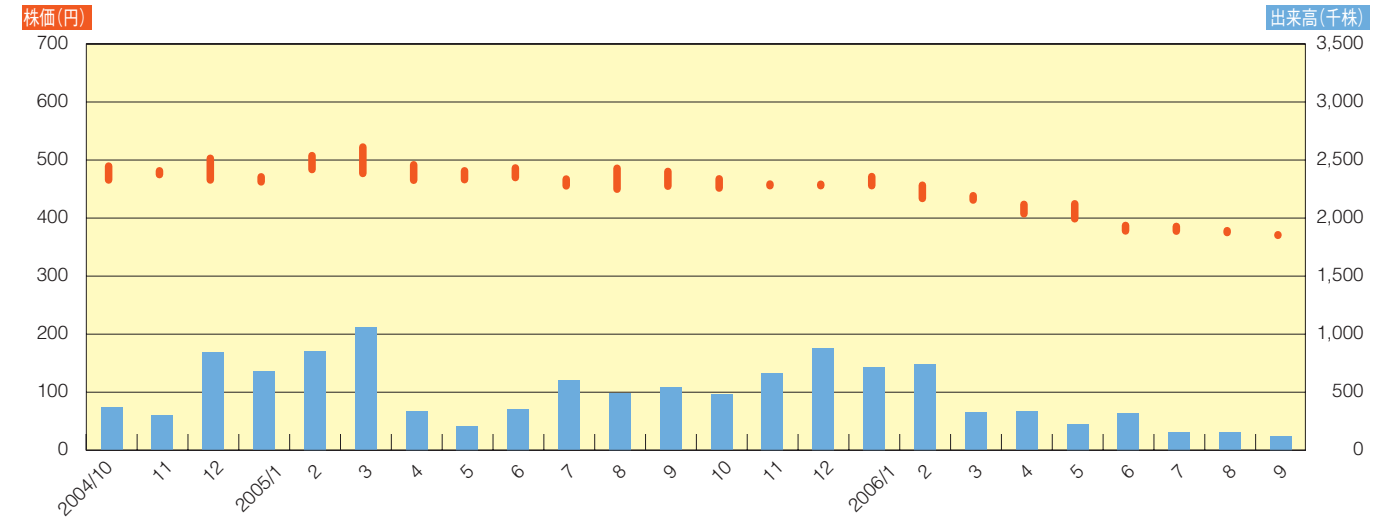
### 事業の内容

医薬品、医薬部外品、医療用具、化粧品、食品および雑貨等の製造販売

### 事業所及び工場

本社	大阪市中央区玉造一丁目1番30号	電話(06)6761-1131(代表)
本社工場	大阪市中央区玉造一丁目1番30号	電話(06)6761-1135
仁丹ミラセル工場びわ湖	滋賀県犬上郡多賀町大字四手諏訪960番地12	電話(0749)48-7370

## 株価および出来高推移



## 株 主 メ モ

事業年度末日	3月31日
剰余金受領株主確定日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
定時株主総会	6月中
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載する
上場取引所	株式会社大阪証券取引所 市場第二部 株式会社東京証券取引所 市場第二部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
事務取扱場所	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話(通話料無料) 0120-094-777
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ●株式関係のお手続きのご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部) 0120-684-479 (大阪証券代行部) インターネットホームページアドレス <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>